



開所日時 月～金曜日 15:00～18:00
土曜日 10:00～13:00
15:00～18:00

児童デイ



おやつの話

「おやつ」について改めて考える

児童デイのプログラムの中には毎回「おやつ」の時間があります。

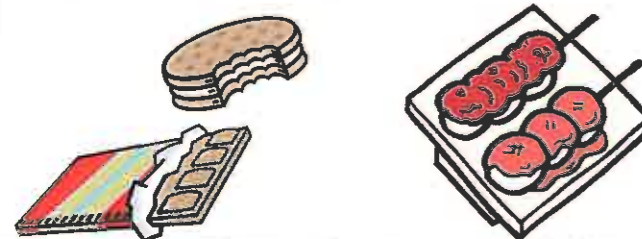
「おやつ」は子ども達にとって、楽しみの時間でもあります。活動全体にメリハリをつけたり、家事スキルを身につけたり、家庭では食べたことのない初めての味に挑戦する機会であったりと、「おやつ」の実施には様々な意味が込められています。

その際、特に気を付けているのは偏食への対応です。一見ただのわがままに見える「好き嫌い」は実は障害特性(例えば舌の過敏など)に起因することもあるので、一人ひとりに合わせた対応をこころがけるようにしています。

「おやつ」に期待すること

メニューにはポテトチップスやチョコレート、グミなどのスナック菓子や駄菓子はもちろん、焼き芋やバナナなど、季節感や素材感のあるものも多く取り入れています。「食べたことないけど、食べてみたら意外においしかった！」そんな発見を期待しています。

その中で「かりんとう」や「いもけんぴ」などの、昔ながらのお菓子も個人的な好みで出しているのですが、最近ではスナック菓子世代の子達がこれらの味にハマっており、「ねえ、今日かりんとうないの?!」なんていう声が聞こえてくるようになり、影でコソコソ喜んでおります。



『在宅での看取り』研修報告～

先日、「NPO法人あい福祉ネット」の研修会にて『在宅での看取り』について学ぶ機会を持ちました。

▼患者自身の強い意志

在宅での看取りの条件として、まず本人の意志を確認すること、介護できる介護者がいること、病状的に在宅ケアが可能(末期癌・脳血管障害・認知症・老衰)なこと、近所にかかりつけ医がいることがあげられます。何より、患者自身の「家に居たい」という意志を尊重して、介護者が「世話をしたい」と思う気持ち大切です。医療技術は日々ハイテクに進歩していますが、在宅での場合はある程度シンプルに、また急変時の医療体制に対応できるシステムも重要です。

▼福祉的ターミナルケア「あんのん死」

平成 50 年代には高齢化率 35%。臓器不全(時々重症化しながら長期にわたり機能が低下して死に至る)や老衰・認知症(長い期間にわたり徐々に機能が低下して死に至る)のように、医学的介入の必要性の薄い「死」のあり方が増えるとも言われています。長期ケアないし生活モデルの延長線上にあるようなターミナルケアが必要とされ、そこには延命処置もいらないと思われれます。

▼死の看取りのケアプラン

医療・介護・インフォーマルな関係(家族・親族・知人等)などを結びつけるケアマネジャーを育てることも重要です。

実際、末期癌の妻を在宅で看取った夫の経験から、医師と看護師、ヘルパーのチームワークの助けが何よりと話されました。本人の意志を大事にし、最後まで介護した達成感、支える福祉NPOの役割も意義深いものがあると思えます。



ミニデイだより



巨大新聞ちぎり絵

今年の暑くて長かった夏もようやく終わり、すっかり秋らしくなってきました。

10月16・17日にスポーツ文化センターで開催される「福祉とボランティア活動展」で展示する為に、全員で協力し合って、巨大新聞ちぎり絵を作成することになりました。元になる絵も相談し合い、「富嶽三十六景の赤富士」に決まり、新聞のカラーページを使ったエコ絵画作りを始めました。パズルが大好きなIさんに指揮を執って頂き、色のバランス・紙の貼り方を調整しながら、とても立派な絵になってきています。完成品を是非スポーツ文化センターでご覧下さい！お待ちしております！！



おやつでどら焼きを作りました。とてもおいしく、大好評でした！！

心づれづれ

私とパッチワークキルト

私の趣味のひとつが「パッチワーク」です。

40代半ば、どうせやるなら名古屋までと友人に背中をおされ、「花もめん」の「名古屋パッチワークキルトスクール」に入りました。

キルトを始めるのに、布で絵を描く芸術性のある人、針を持つのが好きな人、二通りがあります。私は後者でした。

入門して1年以上、大変落ち込みました。提示してある皆さんの作品を見て、「あ〜いう色使いができるのか」「あの布の隣にこの布がくるのか」どうして？どうして！の連続で、色の3要素から脱却できない私は本当に落ち込みました。宿題と提出に追い立てられ、皆さんについて行くのが精一杯でした。

でも、子供の反抗期、無心で針を動かす事で救われました。子育てのストレスから解放してくれたのが「パッチワーク」です。この一年、体調をくずして、健康不安から救ってくれたのも「パッチワーク」でした。

今までのような長時間の集中力はありませんが、無心で針を動かす事が体調を知るバロメーターでもあります。近視に、遠視に乱視で自己満足の作品しか出来上がりませんが、ただただ、針を持つ事が好きをよりどころに、一日でも長く「パッチワークキルト」を続けていきたいと思えます。

協力会員 小木曾利子

